
傘

ラーさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傘

【ZPDF】

Z09020

【作者名】

ラーさん

【あらすじ】

雨に降られてしまつた。しかし傘がない。

雨に降られてしまった。

天気予報を聴かなかつたのは失敗だった。

今朝はあんなに晴れていたのに。

秋の空。

傘がない。

歩いて帰るのは難儀だった。

雨宿りをすることにした。

駅の構内にたたずむ。

雨はしとしと降り続いている。

帰宅する人。

天気予報を聴いていた、利口な彼らは傘を開いて駅を出る。

傘でいっぱいの風景。

手持ち無沙汰。

雨音。

足音。

忍び寄る夜氣。

濡れた空氣。

雨の匂い。

ポケットに二三百円があつた。

駅の向かいに喫茶店がある。

喫茶店は暖かかった。

少し濡れた肩を拭きながら、コーヒーを一杯頼む。

苦かつた。

ガラスの向こうに雨が流れる。

そのまま数刻。

雨は止まなかつた。

「そのまま降り続ければ、一度と帰れなくなるだろ?」

夜。

「もう閉店ですが
ウーハイトレス。

「ですか」

カツプの底に「コーヒー」の跡。
「実は傘がないのです」

眩き。

「そりなんですか」
奥に消えた。

「では、この傘をどう扱う。古て置き傘ですのでも構いなく
白いビニール傘。

「またの『』来店を」

傘を差して店を出た。

濡れる傘。

しばらく歩くと雨がやんだ。
月。

悪くない。

やつへつと傘を開じた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0902o/>

傘

2010年10月10日00時51分発行